

一第60編 一世界と繋がる古城の学び舎

ユニテッド・ワールド・カレッジ^{*1}（UWC）は、本部をロンドンに置く非営利インターナショナル・スクールの集合体である。UWCは、異文化理解を目的として設立された。運用資金はその趣旨に賛同する企業と個人からの寄付に基づいている。日本を含め、世界約80の国と地域で、高校生に対して選考試験を毎年行う。合格者には奨学金を提供し、世界12カ国にあるUWC校に2年間派遣する。UWCは、国際バカロレア資格（IB）^{*2}を、ほぼすべての教育課程で全面的に採用しており、この国際的な教育資格制度の設立と発展に深く関与している。

各国から集まった生徒は、勉学、課外活動を2年間共にし、その過程で異文化理解を實踐する。基本的には全寮制で、一部屋には原則として英語を母国語とする一名を含め、国籍の異なる4名で暮らす。主要な設立者の一人でドイツ人教育者のクルト・ハーンは、野外教育の推進者で

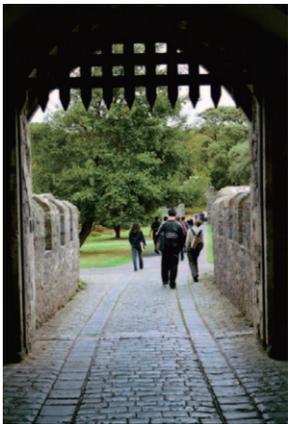


写真60-1 AC 校舎入り口

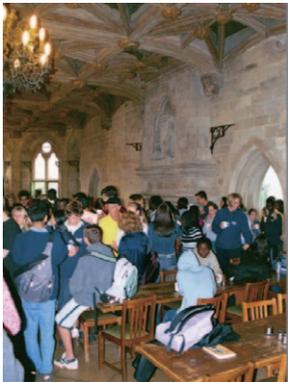


写真60-2 AC 学生食堂

*1
United World
College (UWC):
1963年創設

*2
International
Baccalaureate: 1968

年設立の国際バカロレア機構が管理する、国際的に認められる大学入学資格

*3
St. Donat's Castle

*4
Llantwit Major

もあり、UWCでも野外活動や社会活動が教育プログラムに組み込まれ、活発に展開されている。同校組織の会長はチャールズ皇太子、ネルソン・マンデラ元大統領を経て、現在はヨルダンのヌール王妃である。

その第一号がウエールズ的首都カーディフ近郊にあるアトランティック・カレッジ（正式名称: United World College of the Atlantic）で、1962年に創立された。各種の教室、図書館、学生食堂を収容する、12世紀に起源を持つセント・ドーナツ城を中心に、その周辺の人里離れた広大な敷地に寮などの施設が点在している。

長男がここでお世話になった。本校の最大の特徴は、何と言っても海辺の立地のすばらしさと、ここに集まる男女の生徒たちの圧倒的な国際性にある。生徒たちの出身国数は70か国を軽く超す。国際化などというお題目を唱える意味が全くないように思えるほど、それが彼らのここでの日常なのだ。それ故のつらい相克もあるに違いない。しかしこの意味と価値は、ここを出た後に理解できるのだろう。毎年生み出される地球規模のネットワークは、きっとかけがえない人生の糧となる。その孵化器とも言うべきACのキャンパスから、お店やパブがあるランドウィット・メジャーのまちまで、徒歩で優に30分はかかる。敢えて都会を離れて暮らし、ブリストル海峡沿いの崖の上を友達とそぞろ歩きながら、彼らは何を語り、何を夢見るのだろうか。



写真60-4 ブリストル海峡を望む校庭



写真60-3 セント・ドーナツ城